

今月のコラム

門の復権を思う！

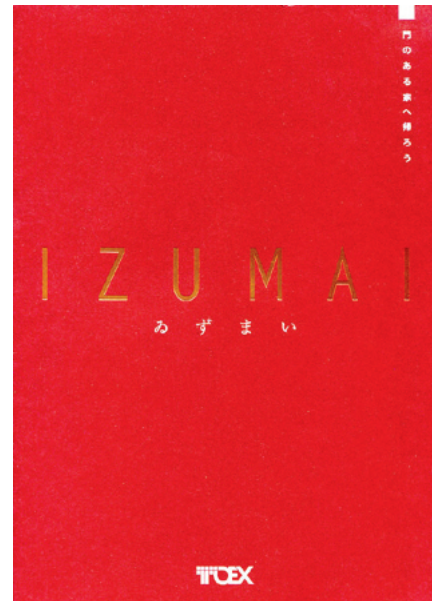
東洋エクステリア(株)
小林秀樹

経済は一流と評価された日本が、今年GNP第2位の座を中国に譲ることになりそうですが、少子化による人口の減少などを考慮すると、残るBRICs各国に追い越される日もさほど遠くない将来と思われます。しかし経済力より悩ましい問題は家庭の崩壊やモラルの低下で、その原因は日本の素晴らしい歴史や文化、加えて古人や古書の教えを軽んじる私達の生活の足元にあるように思いますが如何でしょう。現代の住まいを見渡しても、床の間・仏間を備えたり畳・襖・障子・長押・欄間など自然素材を巧みに活かす建築様式を一般住宅で見かけることはめっきり少なくなり、このような住環境の変化が自然や四季を尊重した日本人の精神性や人間関係に悪影響を及ぼしているように思います。

高度経済成長と共に人口の集中した都市型住宅では敷地の狭小化や核家族化が進み、古来の生活様式を維持することが困難になった社会背景はありますが、もう一度自然や四季を大切に生活を取り戻す為の知恵を出し合い、日本の誇る伝統的な住まいが少しでも復活できれば良いと感じます。このような思いから最も身近なエクステリアを見直したくなり、まずは中心的な門・塀と縁側に着目しました。ご存知のように建築の内と外の間領域をつなぐ“縁側”、個人の住まいと公との中間領域を緩やかに繋ぐ“門・塀”は日本人が大切にしてきた屋外設備ですが、デッキに置き換わった縁側は役割を復活させる一方、門・塀については誤ったオープンガーデンの解釈により取付率が激減し、結果的にはお施主様に暮らし難い生活を提供している忌々しき現実があります。

このような事態を憂慮して、2年前から門・塀に纏わる建造物や遺跡を巡り、あらためてエクステリアの存在をより身近に受け留めて頂く方法を探っているところです。一例で昨年100万人近い来場を集めた話題になった阿修羅展での興福寺再現映像の話題を取り上げますが、最後のブースで門・回廊を含めた全体映像を見た際、その空間の広がり果たす門と回廊の役割に大きな驚きを感じました。

続く5月に岩手県平泉毛越寺を訪ねた際にも、門・回廊を含めた伽藍の復元絵図が目にとまり、庭園の素晴らしさと併せて、外部空間を含めた全体の構成手法に深く感動した次第です。その後も皇居を囲む数多くの門の由来や、法隆寺中門・西本願寺唐門などの名門を歴史と共に楽しみ、身近な方々とは酒席にまで話題を持ち込み門・塀談義を繰り広げています。又先日あるデザイナーの方からは、米国のアプローチが緑の芝生を挟んで一直線上に家のドアを導くのに対し、日本のアプローチは門扉から玄関までの僅かな空間でもゆるやかに曲げ、緑や垣根で空気の流れや気温の変化さえ感じさせる巧の技があり、この技術を米国の建築家が称賛していることを紹介頂きました。日本には自然と共に生きてきた素晴らしい知恵があることを外国の方々から教えられる現状も踏まえて、この度弊社から『IZUMAI (みずまい)』と題する門のガイドブックを発行させて頂き運びとなりました。これを機に、これまでエクステリアに縁の薄かった方までもが関心を寄せて頂き、日本の誇る自然とふれあい自然と共生する住まいを継承してゆきたいと思っています。



2010年8月1日



カエデ
kaede

IGCA日本大会 10月10～15日開催

世界のガーデンセンター関係者が来日

先進国16カ国のガーデンセンターが加盟する国際ガーデンセンター協会（IGCA）の日本大会（大会会長・神代繁近 日本園芸商協会会長）が、10月10～15日の6日間、日本で開かれることになり、大会に向けての準備が進んでいる。

イギリスを始め、欧米・オセアニアなどの国々で組織されるIGCAは、50年の歴史を持ち、年に1回、加盟国を会場にして大会を開催している。日本もオブザーバーとしての参加は長い。日本園芸商協会が2006年に正式メンバーとなり、日本開催への誘致に成功して今年、日本園芸商協会が主催、新しい園芸を考える会が共催して、開催する運びとなった。

視察先はGC以外に盆栽など伝統園芸も視察

大会は、前半を関東エリア、後半を関西エリアとして組まれている。

関東エリアでは、初日に都内ホテルでウェルカムパーティーを開催し、翌日よりグリーンファーム、ヨネヤマプランテーション、サカタのタネガーデンセンター、京成バラ園、オザキフラワーパークのガーデンセンター5ヶ所と、埼玉県の大宮盆栽村や盆栽美術館、盆栽風植木等を欧州に輸出している埼玉園芸市場など、日本の「園芸」を視察。オプションとしてFAJ市場のナイトツアーも予定されている。

関西エリアでは、赤塚植物園など3ヶ所のガーデンセンターと、花の観光施設なばなの里や、EX&ガーデニング資材で世界展開をしているタカショー、淡路島で伝統園芸を展示中の淡路夢舞台、京都の伝統的な日本庭園や金閣寺をめぐる、池坊によるいけばなプレゼンテーションを経て、最後にガラディナーとなっている。

国内からの参加も可能。

▽問い合わせ・申し込みは実行委員会事務局まで。

TEL 059 (230) 1234

(株)赤塚植物園内 担当/里見



昨年のイギリス大会には日本から44名が参加し、各国のガーデンセンター経営者などと忌憚のない貴重な情報交換が盛大に行われた





カエデ
kaede

東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー 2010

初開催で10万人以上が来場

大阪花の万博の理念を引き継ぎながら、アジアのチェルシーフラワーショーとも言うべき国内至高のフラワー&ガーデンショーを目指す「東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー2010」が、4月17～25日、国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン（東京都立川市）で初開催され、9日間で10万187名の来場があり、大盛況の内に幕を閉じた。当会も組織委員の一員として参加した。

ベスト・オブ・ザ・ショーガーデン
「きざしの庭」 / 小杉左岐氏



第12回国際バラとガーデニングショウ

香り立つバラにつつまれた6日間

世界のバラと美しいガーデニングを紹介する「第12回国際バラとガーデニングショウ」が5月12～17日、西武ドーム（埼玉県所沢市）で開催され、期間中21万人余の来場者でにぎわった。

「バラにつつまれる贅沢を」をメインテーマに、バラの回廊やガーデンなどさまざまなシーンで展示されたほか、特別企画「ピーターラビットの庭仕事～英国湖水地方の街から～」など、約100万輪のバラを使い、美しい花と香りにつつまれた6日間となった。

しだれ桃にバラを誘引。和の雰囲気のある建物にバラを見事にマッチさせた小山内健氏による展示「ばらの花あそび」



会員紹介

セロン工業株式会社は本年、創業60周年の佳節を迎えました。皆様のご愛顧に心より厚く御礼申し上げます。「花専用」のプラスチック製品メーカーとして、水栽ポット・ロイヤルプランター・花桶など様々な製品を創り出してきました。「こんな物を作ってほしい。」「あったら便利だ。」という声に一つ一つお応えして形にしてきたのがセロンの製品群です。品質へのこだわりと製品コンセプトがあるからこそ、「花専用」の資材として永くご愛用頂いていると自負しております。又、20年程前から「CO₂削減・環境に優しい製品」の開発に力を傾注。一昨年、食用基準外のコーヒー豆を原料にしたバイオマスプラスチックの「ECOプランター」を発売。環境を守る意識が高い今日、ほのかにコーヒーの香りがする「ECOプランター」は幅広い層の皆様にご好評を頂いております。セロンはこれからも「花と緑のある豊かな暮らし」を提案し続けてまいります。



花専用の花桶



水栽ポット



ECOプランター #65F

セロン工業株式会社

お問い合わせ

〒145-0045 東京都渋谷区神泉町11-7
TEL : 03-3463-4400
FAX : 03-3463-4401
URL <http://www.e-selon.com/>



カエデ
kaede

コラム

時流適応



船井総合研究所
白川輝久

私は、コンサルタントとして園芸業界とかがわってきました。主に、園芸専門店様、ホームセンター様、生花店様のみなさんと共に業績アップに取り組んできました。

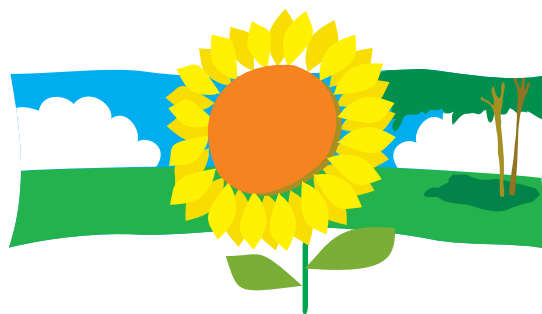
この数年で私のコンサルティングの内容は大きく変化してきました。売れる品揃え、品質の維持、売れる売場づくり、それを伝える販売促進を実現するために、多くの生産者様との連携を深めてきました。現在多くの生産者様やメーカー様の協力のもと園芸・花小売の現場のご支援を行っています。その中で業界のたくさんの方との出会いがあり、ありがたいことだと感謝しています。

そのような取り組みを年々レベルアップさせながらご支援していることのおかげさまで多くのご支援企業様が業績を伸ばしています。業界全体はあまりいい状況ではありませんが、有志の方々がさまざまな活動がはじまっているようです。すばらしいことだと思いますのでぜひ頑張ってください。

私自身が取り組んできて実感しているのは、生産者と小売店が繋がったら、もしくは「良い商品をお店に置いたら」、それだけで業績向上するわけではない、ということです。どんなに良い商品でもただお店に置くだけでは売れなくなったのは小売店の方ならわかりだと思えます。

重要なのは、どうやって売るのか？どうすれば売れるのか？本当に売れるのか？であり、まず商品ではなく、実際に購入し使用する消費者の顕在、潜在ニーズから考えなくてはなりません。それがわからなくては売れるか売れないかは自店での経験からしか考えられません。どんどん変化していく現在の状況では、経験主義と共に仮説主義が必要です。未来を自分で書き換え、つくりあげる、またはつくりなおすくらいの気持ちを持っていきたいところです。

現在、業界は「変化」が始まったところだと思えます。弊社の業績向上の考え方のひとつに「時流適応」があります。業界だけでなく、社会の変化、価値観の変化など環境の変化に対応し勝ち残り、拡大していくお店、企業、生産者が多くでてきて欲しいと思えます。



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

バラを今年初めて植え、初夏に咲きました。「四季咲き品種なら5葉切れれば、また咲きます」と。その通りに8月はじめに咲き始めましたが、バラさん、酷暑の炎天下、ご苦労様です。出きれば朝夕が涼しくなる旧盆すぎだと、ゆっくり楽しめるのですが。